

スクールソーシャルワーク研修

-教育現場におけるソーシャルワーク実践の支援効果と社会的評価-

「子どもの問題は、その社会が抱える課題の写し鏡である。」2014年1月に「子どもの貧困対策推進法」が施行され、経済的事情などで満足な教育や生活支援を受けられない子どものために、学校を拠点とした教育と福祉が連携した取り組みがはじまりました。具体策の1つとして、日本社会福祉士会が中心となり、学校を拠点としたスクールソーシャルワーカーの配置拡充を進めています。愛媛県社会福祉士会では、2008年度より学校現場にスクールソーシャルワーカーとしての社会福祉士会会員の派遣、スーパーバイザーの派遣、研修や事例検討会の開催等の後方支援をしています。

本年度は、県下のスクールソーシャルワーク事業の普及と支援の質の向上を目標とし、上記研修を実施致します。講師は、日本の学校現場におけるソーシャルワークの実践および支援効果に関する研究の第一人者である大阪府立大学の山野則子先生を招聘し、学校現場というソーシャルワークの新たな領域におけるソーシャルワーク実践の支援効果と社会福祉専門職としての課題について、最新の実践と研究のエビデンスに基づいてご講演くださいます。社会福祉専門職だけでなく、広く子どもに関わる方にお薦めの研修です。

日 時 2017年11月11日(土) 13:30~15:30 (受付開始 13:00~)

会 場 松山大学 7号館 726教室 (愛媛県松山市文京町4-2)
※松山大学内に駐車できません。公共交通機関等をご利用ください。

対 象 者 ①子どもに関わる福祉・医療・保健・心理・教育・司法分野の専門職や地域子育て支援従事者
②社会福祉士で、ソーシャルワークの支援効果と社会的評価に関心のある者
③福祉・保育・教育・司法・保健等を専攻している学生

参 加 費 愛媛県社会福祉士会会員・準会員、大学生・・・無料
非会員・・・500円(資料代:当日支払い)

定 員 80名 (ただし、定員になり次第〳〵切ります)

申 込 〳〵切 裏面の申込用紙に記入しFAX・メールにて、11月3日(金)までにお申し込みください

主 催 一般社団法人 愛媛県社会福祉士会 子ども家庭支援部会

<お問い合わせ> 事務局 〒790-0905 愛媛県松山市榊味2丁目2-3 ラ・マドレーヌ2階
TEL(089)948-8031/FAX(098)948-8032 MAIL eacsw@mbr.nifty.com
ホームページ <http://ehime-acsw.com/> (担当:子ども家庭支援部会 友川 礼)

愛媛県社会福祉士会事務局

FAX : (089) 948-8032

Email: eacsw@mbr.nifty.com

参加申込用紙

※FAX 送付状は不要です。メールの方は必要事項を入力して送信してください。

氏名 しめい	
所属先	
所属先の専門分野を○で囲む	教育 ・ 福祉 ・ 医療 ・ 保健 ・ 心理 ・ 司法 ・ その他 ()
連絡先	TEL (携帯電話など緊急の連絡が取れるもの) Eメールアドレス
申込区分を○で囲む	会員 (NO.) / 準会員 / 非会員

講師紹介

山野 則子 (やまの のりこ) 氏

山野則子氏は、大阪府においてスクールソーシャルワーカーによる支援体制を構築するとともに、スーパーバイザーとして教育と福祉の連携による効果的な支援の在り方を実践されてきました。また、研究者としてスクールソーシャルワーカーの支援効果を科学的根拠によって証明することに尽力されています。大阪府での活動を皮切りに、日本におけるスクールソーシャルワークの支援体制の構築のために、文部科学省が開催する国レベルの子ども家庭に関する委員会において中心的な役割を担い、スクールソーシャルワークの支援体制の拡充のために全国を飛び回っておられます。愛媛県で最新のお話を聴く大変貴重な機会です。ぜひご参加ください！

<主な社会貢献活動>

文部科学省 中央教育審議会分科会委員 (2013年3月～)

内閣府 子どもの貧困対策検討委員会構成員 (2014年4月～)

大阪府子ども施策審議会会長 (2013年度～)

日本学校ソーシャルワーク学会理事

大阪府教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー (他3自治体)。

スクールソーシャルワーカー養成事業企画検討委員 (日本ソーシャルワーク教育学校連盟)

<主な著書>

『エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワーク』(編著, 明石書店, 2015)

『よくわかるスクールソーシャルワーク』(共編著, ミネルヴァ書房, 2012)

『子ども虐待を防ぐ市町村ネットワークとソーシャルワーク』(単著, 明石書店, 2009)

『スクールソーシャルワークの可能性』(共編著, ミネルヴァ書房, 2007) 他、多数